



[平成 30 年 9 月 12 日 定例会発表要旨]

**地名由来・ニシン漁・御膳水…「銭函よもやま話」**

銭函の歴史 研究家 佐々木 博一 氏

銭函の町のあゆみについて、お話したいと思います。松浦武四郎が幕末に著した地図や日誌に、「セニハコ」・「銭函」が登場します。地名の由来としては「ニシンの豊漁で銭箱が積まれていた」という説が有名ですが、ほかにも「アイヌ語のシエニ ※カシワの木・ポコ ※ホッキ貝 に漢字を当てた」、「セニ ※狭いところ・ハコ ※崖 で崖下の狭い集落を指す」、「北前船が航行していた頃に金目のものが漂着したから」など諸説あって、未だ解明されていません。ちなみに、実際の銭箱は米櫃式の質素なものがほとんどで、銭函駅に飾られている豪華な銭箱はあくまで縁起物です。また湾内に漂着したものに日露戦争の機雷の残骸があり、これは豊足神社に奉納されています。



幕末の頃から銭函は交通の要所でした。明治 2 年、銭函に上陸した開拓使判官 島義勇は仮役所を現在の駅前辺りにあった白濱邸に置き、ここで指揮を執ったといわれています。明治 13 年、手宮一札幌間に「官営幌内鉄道」が開通した際も、正式な駅として最初に開業したうちの一つが銭函駅でした。

かつて銭函のニシン漁場は“千石場所”と呼ばれるほどに栄え、各地から“ヤン衆”が集まって、浜も町も大いに賑わいました。昭和 25 年の群来を境に衰退していきませんが、稚魚の養殖放流などの努力が効を奏したのか、近年は再びニシンが押し寄せるようになり、春の風物詩になっています。

老舗 新宮商行の木材加工場の敷地の脇に「銭函運河」の起点があります。物資の水上輸送と原野の排水を目的として石狩の花畔まで開削し、明治 30 年には茨戸川や創成川を経て札幌市街と繋がりましたが、使われたのはわずかな期間でした。手稲に残る「山口運河」もこの運河の一部です。

昭和に入ってから銭函は、リゾート地としても注目されます。海水浴場は言うまでもなく、道内最古参のゴルフ場が昭和 3 年に開業し、戦後の一時期は競馬場もありました。石狩湾を一望できる高台には別荘が建ち並び、“赤別荘”と呼ばれた坂邸は後年、映画『Love Letter』の舞台になりました。

ところで、国道 5 号沿いに「御膳水」というバス停があります。明治 14 年、明治天皇が北海道巡



ニシンの群来～たも網すくい  
(昭和 7 年撮影／小樽市総合博物館所蔵写真より)

幸の折にここの沢水を飲まれたことに因んだもので、「御膳水宮」と刻まれた小さな祠も置かれています。しかし、私が調べたかぎり、この言い伝えはどうやら眉唾物であるらしく、地元民からは研究成果を恨まれたこともありました。ロマンと史実は、時に相反するものです。

小樽地名発祥の地「オタルナイ」の移動、護岸などに使われた間知石、駅弁第一号の『酒まんぢう』、開業時と異なる銭函駅の場所、社会情勢で変わった豊足神社の祭典日など、話は尽きません。銭函へぜひ遊びに来てください。 [文責：菅原純子]

次回予定 ⇒ 「平昌五輪を終えて～今こそ語ろう 手稲山の活性化」井幡篤憲氏（公益財団法人 札幌スキー連盟 監事）／  
11 月 14 日（水）18:15～／手稲区民センター 3 階 視聴覚室

